



改装された新グラウンドより新本館棟を望む



生物環境科学研究センター入口



新グラウンド全景



同上 南側

《目次》

平成15年度総会・懇親会	2
日本大学校友会の新機軸	2
日本大学校友会の変革について	3
農学校友会（植物資源科学科）	4
紫友会（農芸化学科）	4
角笛会（獣医学科）	5
満喜葉会（動物資源科学科）	5
いもづる会（食品経済学科）	6
あすなろ会（森林資源科学科）	6
桜水会（海洋生物資源科学科）	7
工学会（生物環境工学科）	7

F T会（食品科学工学科）	8
拓友会（国際地域開発学科）	8
むつあい会（短期大学部農学科）	9
生活環境学科校友会	
（短期大学部生活環境学科）	9
応用生物科学科校友会	
（応用生物科学科）	10
校友会事務局から	10
支部だより	10
校友だより	11
校友会役員・事務局名簿	12

平成15年度総会・懇親会開催される

平成15年度総会は7月12日(土)14時より、日本大学生物資源科学部の新本館棟「中講堂2」において開催されました。総会は本江一郎事務局長より開会の辞、および茂澤 杲会長が急用により欠席されることが報告され、茂澤会長に代わり、富澤寿樹副会長が挨拶された後、富澤副会長を議長に選出し議事へと移りました。

議事において本江事務局長より、新会員1,813名の入会および平成14年度一般経過について報告された後、千野会計担当から決算報告(収入29,535,707円、当年度支出24,154,092円、次年度繰越金5,381,615円、基金積立金9,054,208円、名簿積立金、4,978,942円)が行われました。続いて、山根勝次監査から帳簿・領収書等が適切に処理されている旨の監査報告が行われ、異議なく承認されました。

委員会報告では、はじめに村田総務委員長より総務・財務・広報の各委員会名簿・15年度総務委員会活動計画が提示されました。広報委員会については福井委員より、昨年実施した校友会会報に関するアンケート調査の結果、さらに、経費削減のため①会報の体裁変更②会報の発送方法変更による経費削減の可能性に関する調査③インターネットの活用および準会員への情報提供 について検討を行っていることが報告されました。また、村田総務委員長より、日本大学校友会の会則改正に伴う組織形態の変化と活動状況について説明(3頁参照)が行われました。

平成15年度事業計画案(本江事務局長)では、



「お祝いに駆けつけてくださった各学部校友会の会長様」

従来実施していた新入生への記念品贈呈を中止し、新たにスポーツフェスタ開催時に飲み物を提供することなどが提案されました。これに対し、平成15年度予算案では校友会費徴収方法の変更とこれに伴う収入減が見込まれるため、楠元財務委員長を中心に検討を行ない、分会交付金、会合費、会報作成費等を削減(支出合計は前年比約25%減の22,030,000円)する予算案が示され、異議なく承認されました。

この他、日本大学本部校友会は年会費制であるのに対し、生物資源科学部校友会の一部分会では分会独自の終身会費を徴収しているため、会員に混乱を招く恐れが生じている。よって、今後は分会においても終身会費の名

称で会費を徴収しないよう本部より要請があったことが明らかにされました。このような状況から、各会員に対し、学部別部会および分会(学科)と県支部の関係について明確化を図り、情報提供に努めることとなりました。

懇親会は新本館棟ガレリア階の銀座スエヒロに来賓と会員合わせて約140名が参集して開催されました。開会に先立ち富澤副会長が挨拶された後、来賓を代表して日本大学総長・生物資源科学部長代理として、学務担当 長谷川 功先生より祝辞を頂戴しました。さらに、来賓紹介の後、生物資源科学部事務局次長・齋藤正道先生の音頭で乾杯が行われ、楽しい歓談のひとつきを過ごしました。最後は村田副会長の閉会の辞でお開きとなりました。

日本大学校友会の新機軸

日本大学生物資源科学部校友会

会長 茂澤 杲



改革という又何もかもぶち壊すことだという感覚があります。平成13年新しい日本大学校友会像を描くために、私たちは蹶然として机上の空論 不毛の談議を止めにし、日大らしさをいま一度見つめ直すことから動き始めました。日大らしさ、それは日大に集うさまざまな個性がつくる多様性であり、そこから生まれた成果が織りなす総合の力だと思えます。私たちは日大が誇る総合力によって、世界に通じる大学像を期待し、校友たちが強力に母校を支援する校友会であってこそ両輪一体の効果が華開くものと考え改革に踏出しました。昨年、日本大学生物資源科学部校友会会報第55号の巻頭に、日本大学校友会の抱負と題して、大略を記述しその方向性を示唆しました。いま校友会は正会員・準会員という形で存在し、その運営財源は正会員と学生である準会員が拠出される会費で運営されます。従って校友会の挑戦は 単に卒業生のみの会から脱皮して、将来正会員となる準会員を強力に支援する後援にならねばなりません。

私たちの学部校友会は、他学部同様にこの改革に協調し、どのように対処してゆかかを真摯に検討しています。既に総務・財務・広報の三委員会は、再三の会合を重ね多くの会員に期待される果実を生もうと努力中です。各委員長からの活動報告にも注目していただきたいと思えます。

日本大学校友会の最高議決機関である役員総会が、本年7月にホテル海洋で全国各支部学部の役員140人が出席して開かれました。その折、校友会本部から学部支部校友会に補助金の交付式がありました。この還元金の受取りは(都道府県支部65団体・学部別15団体・職域別4団体・桜門会28団体・海外特別支部7団体)です。因に学部別での筆頭は歯学部、次が理工学部、3番目が通信教育部、そして4番目が生物資源科学部校友会でした。

また準会員に対しては、後期からの入会となります。校友会は自主性を伸ばす学生生活を支援し、学生の自由闊達な活動から生まれる日大文化を側面から育成してゆきます。

私たちの先輩たちは、永い歴史の歩みのなかで、他大学にも類がないと言われるたおやかな日大文化を育ててきてくれました。それが社会のさまざまな分野において活躍する校友評価の礎といえるでしょう。活動のもととなる中心は、準会員に対する新たな事業として、校友会独自の奨学金制度と診療費補助制度の創設といえます。安定した学生生活を確保する奨学金制度は準会員が無担保で金融機関から融資を受け、大学が保証人となり、在学中の利息を校友会が給付する制度のスタートです。学ぶ意欲のある学生が経済的理由で進学を断念することのないよう救済し、また学生が疾病やけがで治療が必要なさい本学附属病院、指定する医療機関で治療を受けさせ、校友会が診療費を助成しようということです。また校子女に対する校友会独自の推薦については、昨年98名の推薦希望に対して12名が合格し、引続き継続されますが厳しい現状にあることを認識して頂きたいと思えます。

終りに、校友の皆さんに重ねてお願いすることは、まず年会費を払って頂き正会員として登録して下さい。同時に補助金の点からも学部支部のどちらに属するか明確に選択していただきたいと思います。

生涯日大出という名実がついて廻る以上、何時にても母校に関心を持たれた校友同士の絆を深め大学を支える一人である誇りを堅持し、ともども母校のさらなる発展に寄与してまいりましょう。

日本大学校友会の变革について

日本大学生物資源科学部校友会は、大学、短大各学科卒業生の分会（13分会）と地方支部（8支部）から組織され、各分会から選出された幹事による幹事会によって運営されています。

学部校友会の運営費は、準会員からの入会金によって賄っていました。各分会は、この入会金の還付金と分会毎に設定された会員からの会費により運営してきました。

また、学部校友会は日本大学校友会の傘下組織体の一つである学部部会として位置づけられています。日本大学校友会の傘下組織体は学部部会（15）の他に、都道府県支部（65）、職域部会（4）及び特別支部（海外支部7）があります。

そして、日本大学校友会の運営費は、傘下組織体からの負担金と、学校法人「日本大学」からの補助金によって賄われてきました。平成13年度以前の運営資金の比率は凡そ、負担金32%、補助金68%でありました。

以上述べたことは、平成13年度までの日本大学校友会の実態であります。

学校法人「日本大学」の補助金に頼っている校友会の実態を反省し、平成13年度に、校友会の自立・自助を目指し、大学との正常な共生組織体として生まれ変わるよう改革が断行されたことは、卒業生向けの情報誌「絆」・学部校友会報等で、会員の皆様には既にご承知のことと思われます。

しかし、その内容について具体的には不明なことが多いと思われますので、以下に生まれ変わった日本大学校友会について説明いたします。

平成13年12月20日、臨時役員総会において会則の抜本的な改正が提案され、満場一致で承認されました。

日本大学校友会は「自立・自助の精神」に則り、学校法人「日本大学」の共生組織体として母校の発展のために寄与すべく生まれ変わったのです。

運営資金は補助金に頼らず、会員登録制度を採用し、正会員・準会員、役員の年会費と、傘下組織体（団体正会員）からの年会費で賄うことになりました。そして、生まれ変わった日本大学校友会が行う事業として以下のように具体的に会則に盛り込まれ、実行に向けて各運営委員会において鋭意推進されつつあります。

第2条 目的

校友会は、会員相互の親睦と福利増進を図り、自立・自助の精神に則り、学校法人日本大学との共生組織体としての機能を発揮し、母校の興隆・発展に寄与することを目的とする。

第3条 事業

校友会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①校友会館の設立・運営
- ②会報、会員名簿の発行及び管理、その他の出版物の発行
- ③各種研究会、研修会、講習会の開催
- ④日本大学から諮問を受けた事項に関する答申及び意見の具申
- ⑤日本大学学生等の募集及び就職への支援

⑥会員の福利厚生等に関する事業

⑦日大 i カードの普及への協力

⑧教職員の教育・文化奨励等に対する助成

⑨国際交流事業

⑩準会員（学生）の学業、体育及び文化活動に対する助成

⑪準会員（学生）の福利厚生に関する助成

⑫その他必要とする事業

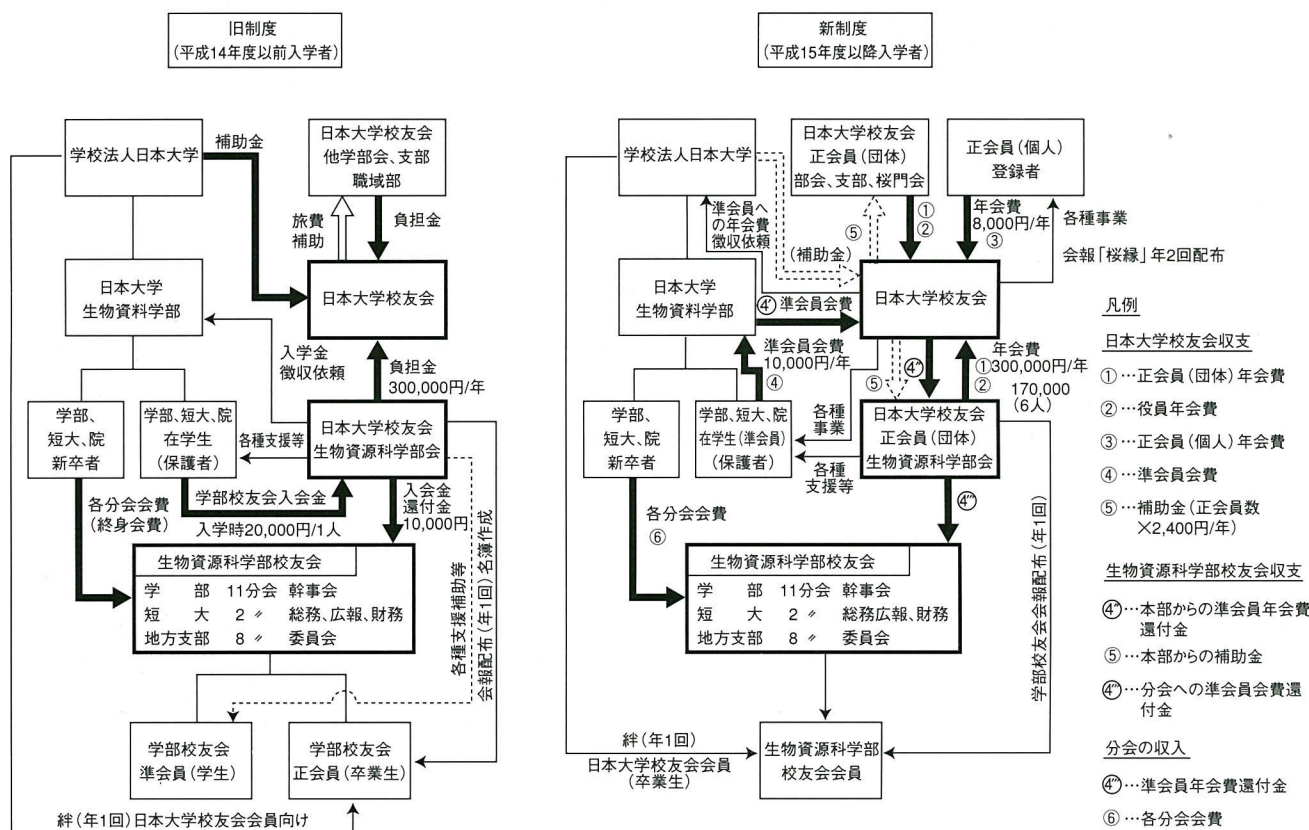
ところで、日本大学校友会が生まれ変わったことにより、傘下組織体としての学部校友会、各分会も、時代にあった団体として変わっていかなければならないと思慮され、幹事会や、各委員会で議論を重ね、より良い方向性を見出していきたいと思っておりますので、会員の皆様方より一層の御教示、ご鞭撻と積極的な参加をお願い申し上げます。

なお、日本大学校友会の傘下組織体である以上、学部校友会、分会の運営資金も変化することになります。旧制度と新制度の運営資金の流れ等について図示してみましたので、御一読され、ご理解して頂ければ幸いに思います。

追、新制度図中の⑤の補助金は、生物資源科学部と明記した正会員数に応じた金額となりますので、正会員登録を要請するとともに生物資源科学部所属と年会費納入時に明記されるようお願いいたします。

村 田 昇

（日本大学生物資源科学部校友会副会長）



農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3620 事務局長 藤井 秀昭
E-mail: fujiki@brs.nihon-u.ac.jp

平成15年度総会・校友会創立50周年記念式典祝賀会

平成15年10月12日(日)に総会・農学校友会創立50周年記念式典祝賀会を湘南キャンパスにて開催することになりましたので、ご案内申し上げます。校友会では平成11年度より、創立50周年記念事業準備委員会が設置され、記念式典委員会、記念誌委員会、記念品委員会、名簿委員会に分かれて活動してまいりました。総会は本館14階NUホール(午後1~2時)にて、式典祝賀会は食堂棟3階ホール(午後2時30分~5時)に行われる予定です。会費は3,000円です。多くの校友のご出席をお待ちしております。

学科の近況

<研究室の移転>

昭和56年に東京校舎より7号館2~4階に移転してから早や21年が過ぎ去り、多くの学生の学舎でありましたが、10月からは新校舎(12号館)の1~2階にすべての学科施設が移転致しました。12号館1階には植物病理学研究室・実験室、応用昆虫学研究室・実験室、緑地・環境計画学研究室・実験室、造園学研

究室・実験室、造園・緑地学資料室、緑地デザイン室・準備室、学科事務室、植物資源利用室、植物生育制御室、2階には作物学研究室・実験室、花卉園芸学研究室・実験室、果樹・蔬菜園芸学研究室・実験室、遺伝育種学研究室・実験室、植物生理機能解析室、遺伝子機能解析室、植物資源科学科実験室・準備室が設置され、学科共通の実験施設が4室あり、その施設には最新の分析機器が多く設置され、また、製図室は緑地デザイン室と改め、新製図台が並びました。研究室・実験室の床面積は共通施設を含めて現在の2倍になります。新研究室の体制が学生・大学院生の教育・研究に更なる発展に結びつくよう、学科主任勝野武彦教授を中心に教員一同、一丸となり努力しております。

<学科研究フィールドの新設>

昭和57年より温室群(7棟)や人工気象箱やファイトトロン室は設置されておりましたが、研究圃場(水田・畑)については分散し

ておりました。昭和36年より念願の学科研究圃場が元付属農場(生命科学研究センター裏・バラ園横)に設置され、多くの研究がされ「フィールドサイエンス教育」の教育体制となりました。

<教員の新任・昇格>

4月より井村喜之助手(植物病理学研究室所属)が着任致しました。先生は岡山大学大学院博士後期課程(博士(農学))を修了され、東北大学遺伝生態研究センター、農水省国際農林水産業研究センターを経て本学にまいりました。花卉園芸学研究室の窪田聡助手が4月より専任講師に昇格致しました。両先生の益々のご活躍が期待されます。

<名誉教授の授与>

本学元教授高橋文次郎先生(第3期)は6月に日本大学より名誉教授の称号を授与されました。さらに石井賢治元教授(第7期)も今秋に名誉教授が授与されます。両先生の益々のご活躍をお祈り致します。(井上弘明)



学科研究フィールドの全景・井村喜之助手

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 土壌学研究室
0466-84-3953 事務局長 隅田 裕明
E-mail: hsumida@brs.nihon-u.ac.jp

平成14年度総会・懇親会を開催

平成14年度の紫友会総会が平成14年11月22日、湘南校舎新本館にて開催されました。総会では茂澤晃会長の挨拶の後、平成13年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成14年度の事業計画、予算案について厳正に審議がなされ、いずれも承認されました。総会の後、多数の来賓と会員が出席し懇親会が盛大に行われました。懇親会には紫友会平成14年度(第9回)奨学生が招待され、懇親会の席上で表彰が行われました。

平成15年度第10回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第10回生9名が、同奨学生選考委員会(有賀豊彦委員長)により厳正に選考され下記のように決定いたしました。第10回紫友会奨学生の表彰は本年10月の紫友会総会・懇親会時に行われる予定です。

2年次 熊谷一樹、森田智彦、伊藤彩子
3年次 平野貴子、箕浦佳代、水越舞
4年次 井田武史、川口麻耶、貫井祐子(敬称略)

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年4月に新入生158名を迎え、4年次まで総計626名の学生が在籍しております。学科主任に有賀豊彦教授、生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻主任に奥忠武教授が就任されております。また学部執行部の学務担当に長谷川功教授が就任され、活躍されております。本年4月1日付で荻原淳先生(酵素科学研究室)が専任講師に昇格されました。野口章先生(植物栄養生理学研究室)は平成15年度日本大学長期海外派遣研究員として「土壌の作物生産性評価に関する植物栄養学的研究」のため、本年9月より1年間の予定でドイツ・ミュンヘン工科大学植物科学科に留学されております。川東正幸先生(土壌学研究室)はアレキサンダー・フォン・フンボルト財団助成により「永久凍土の

分布がタイガ・ツンドラ地帯の土壌有機物組成に及ぼす影響」についてご研究のため、本年9月より1年間の予定でドイツ・マルティン・ルーター大学ハレ・ビッテンベルグに留学されております。

紫友会事務局より

校友会活動の一環として、昨年も紫友会杯争奪研究対抗ソフトボール大会が開催され食品化学研究室が優勝しました。(写真:優勝した食品化学研究室のみなさん)平成16年11月に紫友会結成50周年記念パーティーを開催します。校友の皆様が広く交流を深め、旧交を温め楽しいひとときを過ごせることと思います。奮ってご出席くださいますようお願いいたします。この記念事業として、50周年記念誌の発行および農芸化学科への記念品の贈呈等を予定しております。(荻原 淳)



紫友会杯ソフトボール大会で優勝した食品化学研究室のみなさん

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先：獣医微生物学研究室
0466-84-3635 鎌田 寛
E-mail: kamata@brs.nihon-u.ac.jp

角笛会総会を開催

日時：平成15年7月5日土曜日午後1時

場所：日本大学湘南校舎第4講義室

内容：

1. 平成14年度の事業報告、会計報告が、小暮規夫（昭24）、堀口隆嘉（昭33）、福田陽一（昭36）監事の監査報告を受けた後、承認されました。

2. 平成15年度事業計画案、予算案が承認されました。支部等全国の校友会組織との連絡活動を密にすることが日比野会長より表明されました。会費納入者は、本部で掌握している会員の約一割であるため、大学、本部、支部の三者が相互に連携し、新会員の支部入会促進を図って行く方針が改めて確認されました。

3. 表彰等

角笛会功労者：小泉敏夫氏（昭19、元北海道角笛会支部長）、原田豊造氏（昭22、元茨城県角笛会支部長）、小池専治氏（昭28、元岩手県角笛会支部長）

ANMEC（日本大学動物病院）支援基金授与者：本学大学院生北川勝人氏「小動物てんかん発作性疾患の診断基準確立に関する研究」

4. 新役員

会長：中川秀樹（昭40、横浜）、副会長：長尾壮七（昭27、神奈川）、田中茂男（昭38、

日大）、岩田頼三（昭40、千葉）、監事：月瀬東（昭40、日大）、山村穂積（昭41、東京）、島海 弘（昭50、神奈川）

幹事：澤田 啓（青森、昭25）、沼田幸彦（佐賀、昭30）、三浦賢良（岩手、昭32）、犬塚誠（和歌山、昭35）、倉林恵太郎（東京、昭36）
学内幹事：奥田 勝（昭34）、斎藤 勝（昭38）、三浦康男（昭40）、川路利和（昭42）、渋谷 久（昭60）、鯉江 洋（平2）、浅野和之（北大卒、平3）、伊藤琢也（平7）

顧問：日比野次郎（昭14）（敬称略）
5. その他

1）現在検討中の角笛会会則改正案素案を叩き台として、引き続き検討を行うこととなりました。

2）角笛会は、獣医学科卒業生全てが自動的に所属する会であることから、日本大学本部の「校友会」とは独自に活動と、支部会費も従来通り徴収することが決まりました。

3）総会終了後、懇親会が午後4時より本館地下の「銀座スエヒロ」にて催されました。

○獣医師国家試験

第54回獣医師国家試験の結果が平成15年3月19日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者148人が受験し、119人が合格しました。合格率は80.4%でした（全国平均88.2%）。

獣医学科の近況

○表彰、受賞

卒業生の田井貴子さんが優等賞、住川栄太さん、塚原涼子さんが学部長賞、福成和博さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ授与されました。また、体育部門で片岡杏子さんが総長

賞を、学術・文化部門で二瓶萩尾さんが優秀賞を授与されました。

角笛会会長賞は、住川栄太さん、田井貴子さんに授与されました。

○博士（獣医学）の学位取得者

大学院博士課程修了者：坂井孝氏（犬慢性肝疾患の病態に関する研究）、佐野順一氏（犬好中球におけるアポトーシス制御に関する研究）、橋本志津氏（犬乳腺腫瘍の臨床疫学研究）

論文提出による取得：宮本賢治氏（猫の糸球体濾過機能に関する研究）

○退職

藩英仁先生（獣医伝染病学）、見上彪先生（獣医公衆衛生学）が退職されました。

○昇格・移動

浅野和之先生（獣医外科学）、加納 壘先生（獣医臨床病理学）、壁谷英則先生（獣医公衆衛生学）が専任講師に昇格されました。

○新任

石名坂豪助手（獣医臨床繁殖学）、枝村一弥助手（獣医外科学）、坂井学助手（総合臨床獣医学）、鈴木和彦助手（獣医病理学）、高橋朋子助手（総合臨床獣医学）、堀江美千子副手が採用されました。



石名坂豪助手、枝村一弥助手、坂井学助手、鈴木和彦助手、高橋朋子助手、堀江美千子副手

○その他

見上彪先生は7月より内閣府食品安全委員会の常任委員に就任されました。同時に、本学客員教授にも就任されました。

（丸山 総一）

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先：動物生体機構学研究室
0466-84-3790 遠藤 克
E-mail: yamamuro@brs.nihon-u.ac.jp

満喜葉会役員会、新入生歓迎会開催

本年度の満喜葉会役員会は、平成15年5月31日（土）午後2時より日本大学生物資源科学部本館2階中会議室にて開催されました。役員会は内田駿一会長、ならびに甲斐蔵動物資源科学科主任の挨拶の後、会則に従い内田会長を議長として議事に移り、平成14年度事業報告ならびに決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。続いて、平成15年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、審議の後、承認されました。

役員会閉会の後、午後4時より場所を食堂棟1階に移し、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が学科・満喜葉会協賛で行われました。

学科の近況

〔新入生、教育〕：本年度は147名の新入生が動物資源科学科に入学しました。10年程前から女子の入学者の割合が増え、現在、動物資源科学科は学部の中で最も女子学生の多い学科となっています。今年の新入生も女子の数が100名を超え、その割合は実に70%以上

になっています。

学科名が変更され8年が経過し、新学科名や外部からの学科イメージもようやく定着して来た感がありますが、今後は教育体系や内容も社会、受験生のニーズに沿った本質的な変革を迫られることになると思われます。また、高校教育において本年度から始まった新教育体制に適應する学科カリキュラムの改編や長期的な将来計画など、内外に様々な問題が山積しておりますが、学科教員一丸となって対応する所存でおりますので、温かなご支援を宜しくお願い致します。

〔主任交代〕：平成13年4月より学科主任を務められていた泉水直人教授の学部執行部（学生担当）入りに伴い行われた学科主任選挙で、甲斐蔵教授（動物生殖学研究室）が主任に選出されました。

〔退職〕：長野實教授（畜産経営学研究室）は平成15年3月31日をもって定年退職されました。長野先生は昭和43年本学科に赴任されて以来、昭和60年より4年間学科主任を務められるなど、35年間の長きに亘って学科の発展にご尽力戴きました。今後もご健康に留意され、さらなるご発展をお祈りしております。杉山麻衣子副手は平成15年3月31日、土屋（旧姓：鈴木）咲子副手は平成15年6月30日をもって退職されました。土屋副手は4年3ヶ月、杉山副手は3年間に亘って、学科事務、学生実験等を担当して戴きました。両副手の今後のご多幸を心よりお祈りしております。

〔新任〕：平成15年4月1日付けで、成島玲

子副手（写真：本年3月本学応用生物科学科卒）が着任されました。成島副手は、甲斐蔵学科主任のもと学科事務を担当して戴いております。

〔昇格〕：平成15年4月1日付で小林信一助教授が教授に、小泉聖一専任講師が助教授に昇格されました（ともに畜産経営学研究室）。



成島玲子副手

〔事務局より〕

本年度の入学者から、校友会費徴収のシステムが大幅に変わります（詳細は生物資源科学部校友会事務局からのお知らせ、または満喜葉会事務局にお尋ね下さい）。前記致しました役員会開催の時期には、詳細な変更内容が分会に対して示される前であった事、また新システムにおいて分会への収入が実際の程度になるのか全く予想できなかった事などの理由から、役員会において従来から満喜葉会で行ってまいりました事業内容を変更するか否かに関しての討議は行っておりません。しかしながら、満喜葉会運営のためにご協力頂いていた従来の「終身会費」または「終身会費相当寄付金」の徴収が今後は困難となり、大幅な収入減となることが容易に予想され、新システム移行に伴う事業内容（満喜葉会報、名簿の発行等）の変更や縮小は必至になると思われます。会員の皆様にはご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒ご理解下さいませ。様、宜しくお願い申し上げます。（山室 裕）

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品企業分析論研究室
0466-84-3410 事務局長 斎藤 武至
E-mail: tsaito@brs.nihon-u.ac.jp

《平成15年度幹事会を開催》

平成15年度の幹事会および懇親会が去る6月7日(土)に行われました。幹事会は午後4時から本館10階の学科プレゼンテーションルームで、引き続き懇親会が地下一階のカフェテリアで開催されました。

幹事会では、昨年度の活動報告、会計報告及び監査報告などをはじめ、会則の第4条(大学院専攻名)の修正と第8条(副会長の任期)について一部改正が承認されました。また、事務局長から大学の受験生激減期に対応する学科広報活動等への支援と日本大学校友会の制度変更に伴う分会交付金の減額、「終身会費」の名称変更について説明がありました。

懇親会には学生幹事を含め40余名の参加者があり、和やかな一時を過ごしました。

《今、学科では》

【新入生】今春、食品経済学科は180名(留学生16名を含む)の新入生を迎え、恒例の新入生研修会は4月19日(土)、日本大学西富士校地花鳥山脈実習場を中心に行われました(写真)。新入生の学園生活への早期適応を目的とした



研修会は、上級生が企画したバス車内でのクイズ大会やアドバイザーグループ交流会などにより、有意義な一日を過ごすことができました。

【オープンキャンパス】7月30・31日に開催されたオープンキャンパスでは、研究室開放や食品の安全性に関するビデオ上映、パソコンによる食事の自給率計算などを企画し、また高校生の利用頻度が高いコンビニエンス・ストアで販売されている商品を展示し、今日のフードシステムの現状や食品企業の経営戦略や新製品開発などについて、訪れた高校生と学科教職員との間で、さまざまな視点から意見が交わされました。

【特別講義】今年で12年目を迎える3年次開講の特別講義は9月の3日間、「㈱ニチレイの経営戦略と事業展開」と題して、㈱ニチレイの代表取締役社長浦野光人氏による集中講

義の形で行われました。ニチレイの経営環境認識と経営戦略、新商品開発などについて、理論と実務の両面から講義が進められました。

【新カリキュラム】平成16年度からスタートする新カリキュラムでは、2年次から「食料資源環境コース」と「食品産業コース」の2コース制を導入します。「食料資源環境コース」は本学部の理念である生物資源生産と環境科学の社会科学的側面を担うことを意識した教育内容に、また「食品産業コース」は従来の食品経済学科の学問体系を集約・発展させたコースになっています。

【人事】学科のためにご苦労頂きました北川ひとみ副手が本年3月末日をもって退職され、後任として中川史子副手(平成15年3月本学部動物資源科学科卒業)が着任されました。また、第11代食品経済学科主任教授に下渡敏治先生が選任され、磯田みゆき先生が助教授に昇格されました(同4月1日付)。学科のより一層の充実・発展を期待したい。

【学科Home Page】

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/webadmin/DFE.html>

(木島 実)

あすなる会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3675 事務局長 石垣 逸朗
E-mail: i-ishigaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成15年度あすなる会理事会および懇親会を開催

平成15年7月19日(土)午後3時より湘南キャンパス10号館演習室において、平成15年度あすなる会理事会が開催されました。各期の理事28名が出席し、会長を議長に選出の後、事務局長より平成13年度、14年度事業報告、ならびに会計決算報告が行われました。会計監査報告の後、引き続き、平成15年度および16年度事業計画案、予算案の審議が行われ、承認されました。さらに、第1期の河村光幹氏、第51期の齋藤尚志氏と大河和夏氏、第52期の小川結希氏と佐伯朋哉氏が新理事として承認されました。また、本年度総会・懇親会についても審議され、平成15年10月18日(土)に湘南キャンパスにおいて実施することとなりました(時間は未定)。全ての議事終了後、場所を本館カフェテラスに移して懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中閉会となりました。

平成14年度あすなる会会長賞受賞者

平成14年度あすなる会会長賞に下記の6名が決定し、平成15年3月24日横浜ベイシェラトンホテル・アンド・タワーズにおいて行わ

れた卒業記念パーティーにて、表彰状と記念品の万年筆が贈呈されました。

富岡大典(森林・緑地造成ゼミ ㈱梅本商行)
小林寛子(林業経営ゼミ 林野庁)
平戸麻理(木材科学・工学ゼミ 東京農工大学大学院進学)
渡邊良子(森林・緑地保全ゼミ 旭化成ホームズ㈱)
池田早苗(森林動物ゼミ セレサ川崎農業共同組合)
西尾順介(住宅・流通ゼミ 佐川物流サービス㈱)

新入生歓迎会が開催される

毎年恒例の森林資源科学科新入生歓迎会が5月31日の学部運動会終了後、湘南キャンパス1021講義室において行われました。あすなる会より差し入れの飲み物での乾杯で始まり、盛大な歓迎会となりました。学生、教員とも、共に戦った運動会の後とあって打ち解けた雰囲気の中、大いに親睦を深めることができました。因みに運動会では4位という好成績を収めました。なお、本年度の新入生は155名(男子97名、女子58名)です。

学科の近況

木材科学・工学研究室の石津敦先生、森林環境保全研究室の塚本良則先生が平成14年12月に定年退職されました。両先生とも学科の発展と学生の教育にご尽力を賜り、誠に有難うございました。4月から石津先生の後任として志水一允教授が着任されました。志水先生は北海道大学農学部林産学科のご出身で、森林総合研究所木材化工部長、日本国際事業団(JICA)による中国林業科学院中国人工

林プロジェクトリーダーなどを歴任されておられます。また同じく4月から、森林動物学研究室に佐藤喜和助手が着任されました。佐藤先生は平成8年北海道大学農学部農業生物学科をご卒業後、東京大学大学院で博士課程を修了されておられます。両先生の今後の更なる活躍が期待されます。



志水 一允教授



佐藤 喜和助手

事務局より

昨今の就職環境は非常に厳しいものとなっております。このような現状を踏まえ、あすなる会の役割の1つとして、就職支援活動を実施してはどうかとの提案が先の理事会においてなされ、事務局を中心に企画・実行を検討していくこととなりました。つきましては、会員の皆様方にも積極的なご協力をお願いいたします。就職に関する情報をお持ちの方は、上記連絡先までご一報いただければ幸いです。

前報でもお願いいたしましたように、会員の動向を的確に把握するため、住所変更、氏名の変更などがございましたら、お手数でも事務局までご連絡下さい。

(宮野 則彦)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科分科会

連絡先 海洋生物資源管理学研究室
電話 0466-84-3689 事務局長 吉原 喜好
E-mail: yoshihara@brs.nihon-u.ac.jp

この1年間の学科教員の構成に大きな変化はありませんでした。また桜水会事務局長が小橋二夫専任講師から吉原喜好教授に交代致しました。

海洋生物資源教育研究センター開所式

昨年の本報でも紹介しましたように、下田臨海実験所は昨年度の文部科学省オープンリサーチ整備事業計画に採択され、「海洋生物資源教育研究センター」として改修工事が進められ、本年6月14日に開所式を迎えるに至りました。そのため、今後4年間は下田臨海実験所と海洋生物資源教育研究センターの2枚看板で行くこととなります。本事業では「海洋生物の動態解析による持続的資源利用に関する総合研究」をメインテーマとし、

開所式風景



(1) 海洋生物の新機能の開発とその応用に関する研究(代表者 別府輝彦教授)、(2) 海洋生物資源の持続的生産性向上のための生態学的研究(同 谷内 透教授)および(3) 海洋生物共生系の海洋環境浄化に係わる役割評価に関する研究(同 中嶋睦安教授)の3研究プロジェクトから構成されており、いずれも下田周辺海域の多様な動植物や微生物が研究の対象となっています。

開所式に先立ち、当日の9:30から同事業の平成15年度第1回一般公開講演会が開催され、海洋生物資源科学科の教員による以下の講演がありました:「魚の鮮度の話」(望月 篤教授)、「サメ類の生態と漁業」(谷内透教授)および「赤潮の話」(広海十朗教授)。また各講演に対して熱心な質疑が行われ、その模様は下田有線テレビ放送でも紹介されました。

開所式には80名が出席し、吉原実験所長、佐々木学部長の挨拶の後に、石井下田市長、蔵本筑波大学下田臨海実験センター長、藤本下田漁業協同組合専務理事の祝辞が続きました。また式の後に施設見学会も催されました。

今回の改修工事では、部屋の構成が大幅に変更されました。即ち、1階には事務室、所長室、実験室、同準備室、実験研究室(1)、同(2)、冷凍室および飼育実験室が、また2階には講義室、教員研究室、教員共通実験室、機器室および電気室が置かれました。今回の改修での目玉の一つとして70名程度が収容できる講義室が設置され、学生の教育だ

けでなく、周辺住民や研究者を対象とした講演会・講習会などにも利用されます。また実験所裏に新たに水槽棟(約100㎡)が建設され、流水式水槽が設置されたため、汚染に敏感な水生生物を飼育することが可能になりました。開所式当日は、水槽に収容したネコザメ、ウツボ、メジナ、イセエビ、アワビなどの海産動物が開所式出席者の眼を楽しませてくれました。

上記の施設には遺伝子解析装置、蛍光顕微鏡・写真撮影装置、生体試料調製装置、CNコーダー、ソフテックス、海産魚類環境制御飼育システムなどの最新鋭機器が新たに設置されました。このように、下田臨海実験所は我が国の水産系実験所の中でも有数の施設に生まれ変わりました。今後はこれまで以上に本施設を教育・研究に活用し、多大の成果をあげることが求められています。また本事業では民間からの委託研究も積極的に受け入れておりますので、関心のおありの方は学科の関連教員にご相談下さいようお願い申し上げます。

訃 報

学部・学科の発展に多大の貢献をされた門田定美先生(前学部長、前教授;平成15年1月20日)ならびに稲葉伝三郎先生(元学監、元教授;平成15年7月2日)がご逝去されました。謹んで両先生のご冥福をお祈り申し上げます。

工 学 会

◇農業工学科・生物環境工学科◇

連絡先 地域環境計測学研究室
0466-84-3694 (FAX兼用) 斎藤公三(事務局長)
E-mail: ksaito@brs.nihon-u.ac.jp

第14期理事と懇親会について

平成14年9月28日(土)14時より湘南校舎第1会議室で理事会が開催された。議長選出の後、経過報告、決算報告、会計監査報告がなされ承認された後、平成14年度事業計画案および予算案が審議、承認された。この後、世良田学科主任よりJABEEに対する学科の方針とそれに対するOBの協力が不可欠なことが説明され、満場一致で理事のご理解と今後の協力を得られることになった。また、事務局側から平成3年卒の期別幹事が岡崎氏より栃木洋一郎氏に変わることが報告された。

役員会は15時より同じ会議室で開催された。村田会長の挨拶の後、経過報告、決算報告、会計監査報告が行われ満場一致で承認された。続いて平成14年度事業計画案および予算案が審議され承認された。この後、第14期新理事の選出が行われたが、役員全員からの『理事全員の留任』の意見がでた

ため、理事の留任が確定した。第14期理事の方々は下記の通りです。

会 長	村田 昇	(昭和41年卒)
副会長	新藤 薫	(昭和42年卒)
"	酒川和夫	(昭和47年卒)
"	鈴木昌二	(昭和49年卒)
会計理事	鈴木重則	(昭和52年卒)
理 事	岩川重雄	(昭和38年卒)
"	戸崎紘一	(昭和39年卒)
"	陳尾友行	(昭和42年卒)
"	新井宏枝	(昭和44年卒)
"	比留間速男	(昭和48年卒)
"	河野 廣	(昭和51年卒)
"	玉川雅仁	(昭和54年卒)
"	内藤泰征	(昭和57年卒)
"	工藤謙一	(昭和58年卒)
"	田上もと子	(昭和60年卒)
"	加古師幸	(平成2年卒)

なお、平成14年度期別幹事は倉田能正氏と

伊藤真啓氏に決まりました。

平成14年9月28日の理事会、役員会の後、17時より本館地下1Fのカフェテリアで懇親会が開催された。会の開催に先立ち、OBの方々は本館の内部を学科の先生方に案内してもらい、そのすばらしさに感心していたが、特に講義室の視聴覚機器に対しては自分たちが授業を受けていた頃を振り返り、感動していたのが印象深かった。

会は酒川副会長の司会で、会長挨拶、茂沢学部校友会長の挨拶、学科主任(世良田教授)挨拶、乾杯(一期の木村光男)の順で進行した。懇親会会場はOBにとっては初めての会場であったため、非常に好評であった。会は盛況のうちに閉会となったが、二次会の方は例年のごとく行われたようである。

学科の動向

本年4月、石川重雄先生が教授に昇格されました。昇格おめでとうございます。今後もご活躍をお願いしたいと思います。

昨年より米国へ留学されていた内ヶ崎万蔵専任講師が無事、本年8月に帰国されました。さらなる今後の御活躍を期待したいと思います。

訃報

本年8月15日、土田悦郎元教授が肺不全のためご逝去されました。享年91歳でした。謹んで哀悼の意を表したいと思います。

(川西 啓文)

懇親会風景



F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: tekenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T会活動報告



○平成15年度 F T会総会開催

平成15年度F T会総会が平成15年6月14日午後2時より本学湘南校舎において行われました。総会は関村 具由会長（第1期生）の挨拶で開会し、平成14年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成15年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○F T会会旗の完成

平成15年度F T会総会が無事終了した後、関村会長からF T会の新しいシンボルとなる会旗が披露されました。会旗は関村会長が会

員相互の親睦を深め、F T会の発展を願うシンボルとなるようなものがあったとしても良いのではないかという考えから、つくりあげられました。今後、懇親会などで、様々な行事で披露したいと考えております。

○準会員（在学生）への活動

平成14年10月10日にF T会補助のもと、3年生と教員との懇親会が盛大に行われました。

また、平成15年3月25日には第38期学生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られるF T会長賞を授与いたしました。平成14年度は石川佳納子さんが選ばれ、金一封が贈られました。最後に、平成15年5月31日に行われたスポーツフェスタでは参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。なお、成績は準優勝と、優勝まであと一歩でありましたが、若さ溢れるよくまとまった若人たちでした。



学科の近況

○退職

平成15年2月17日付で鈴木和威教授が退職されました。先生は昭和50年、食品製造工学研究室（旧7、8研）に来られ、長年にわたり、学生の教育および研究に指導されました。

また、平成15年7月29日付で武田明治教授が退職されました。先生は平成5年、国立衛生試験所から食品衛生化学研究室（旧食品分析学、旧6研）に来られ、残留農薬および食品添加物などの新しい研究分野を学生に指導されました。今後とも、両先生のご健勝をお祈りいたします。

○新任

上野川修一教授が東京大学大学院農学生命科学研究科より、林力丸教授が京都大学大学院農学研究科より着任されました。上野川先生は食品機能化学研究室（旧1研、旧食品製造学研究室）に、林先生は食品製造工学研究室（旧3研）に所属されます。

事務局より

会員の方で、住所変更や改名などがございましたら、ご面倒とは思いますが、ぜひ事務局までお知らせ下さい。

（阿部 申）

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
03-3421-6437 事務局長 早川 治
E-mail: osamn@ca.mbn.or.jp

新卒業生143名巣立つ！

平成15年3月、143名の国際地域開発学科卒業生が巣立っていきました。彼らは永らく続いて来た2コース制最後の卒業生で、3年次になったときに東京校舎から湘南校舎への学科の全面移転もあり、1年次湘南校舎、2年次東京校舎、3・4年次湘南校舎と落ち着いた学生生活を送ったといえます。その上社会の不況を反映して企業の求人数も減っており、厳しい就職戦線でした。それでも就職率は92.1%で、学部全体の就職率89.4%を上回ることができました。

主な業種別就職者数を見ると、第一次産業では林業に1名しかいません。拓植学科の時代とは大きく変わってしまいました。第二次・第三次産業では建設業3名、製造業6名、情報通信業6名、卸・小売業22名、金融・保険業4名、医療福祉関係3名、教育・学習支援業4名、農協関係3名、サービス業7名、公務員2名、自営業2名と全ての業種に分散しているのが特徴的です。また、大学・大学院進学11名、留学・各種学校進学7名と進学するものも多くなっているのも近年の傾向です。なお、卒業時に拓友会入会金（1万

円）を納入された方を正式な拓友会会員として登録し、正会員には会報（拓友会報）、総会・懇親会案内、拓友会会員名簿などの情報を直接お届けしています。入会金未納者は拓友会事務局へお問い合わせください。

拓友賞に和泉祐子さん

毎年、成績優秀で、なおかつ拓友会活動に積極的に協力する予定の卒業生に贈られる拓友賞は平成14年度卒業生の中から、和泉祐子さんが受賞し、学科卒業証書伝達式において表彰され、その後行われた卒業パーティの席上で、受賞挨拶が行われました。



学科の動き

〔新任〕

中島 卓介教授 中島先生は東京大学大学院を修了され、農林水産省入省、草地試験場、（独）農業生物資源研究所に勤務、2003年同研究所を退職され、本学生物資源科学部の教授にお迎えしました。資源作物学I・他を担当されます。

松本 礼史助教授 松本先生は広島大学大学院を修了され、広島大学大学院国際協力研究科助手、東亜大学総合人間・文化学部助教授を経て2003年4月から日本大学生物資源科学部国際地域開発学科助教授にお迎えしま



中島 教授 黒田 副手 松本助教授 した。環境経済学・他を担当されます。

黒田 有希子 副手 2003年3月日本大学生物資源科学部生物環境工学科を卒業され、4月から副手として勤務されています。趣味は旅行。現在、ダイエット情報を収集中とか…。

〔退任〕

陳 仁端教授 中国語、農業経済学他を担当されていた陳先生が、定年を迎え退職されました。

緒田原 涓一教授 国際経済学等を担当されていた緒田原先生が定年を迎え退職されました。

上原 秀樹教授 環境経済学等を担当されていた上原先生が、明星大学へ遷られるため、退任されました。

落合 あずさ 副手 本学部資料館へ転属のため、本学科副手を退任されました。

訃 報

久木田 賢志 名誉教授（元学部長 元学科主任） 久木田先生が2003年4月19日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り致します。（緒方行廣）

むつあい会

◇短期大学部農学科◇
連絡先 環境情報工学研究室
0466-84-3746 事務局長 青山 友雄
E-mail: aoyama@brs.nihon-u.ac.jpまで

総会・懇親会の開催

平成15年度むつあい会総会は、6月14日(土)15時より旧本館2階大会議室において開催されました。はじめに、事務局長が武田恭明教授から青山友雄教授に、編集幹事が浅野紘臣教授から寺澤輝雄教授に、それぞれ2年任期で交代した旨の紹介アナウンスがあり、続いて富樫利男副会長の開会の辞、富沢寿樹会長の挨拶で始まり、天野六江(4期)を議長に選出して議事に入りました。武田恭明前事務局長より平成14年度一般経過報告、富沢会長から補足説明と事業の詳細について報告等が行われ、報告通り承認されました。また、平成14年度会計報告(滝沢章監査による監査報告を含む)が行われ報告どおり承認、さらに、平成15年度会計予算案の審議に入り、予算通り承認されました。

続いて、むつあい会50周年記念行事について審議され、平成17年(2005年)に式典を挙行すること、そのための実行委員会を立ち上げることが再確認されました。式典・祝賀会開催計画責任者の鈴木勝春副会長、記念誌作成責任者の富樫利男副会長、名簿作成計画委員長の岡本哲朗副会長から、それぞれ事業の



綱引きに気合が入る一年生
(於：スポーツフェスティバル)

実施に関する決意が表明されました。

懇親会は17時より新本館カフェテリアで開催されました。来賓として茂澤早校友会長、本江一郎校友会事務局長、河野英一短期大学部次長、校友会分会長(または代理)および農学科関係教職員のご臨席と準会員10名の参加を得て和やかに開催されました。会は鈴木副会長の司会により、岡本幹事の開会の言葉、富沢会長の挨拶で始まり、茂澤校友会長、河野短期大学部次長、来賓紹介と続き天野氏の乾杯の音頭で懇談に入りました。

生物資源科学部が21世紀世界最高水準研究教育拠点21世紀COEプログラムに2年連続選ばれたこと、2005年にむつあい会50周年記念事業が予定されており、多くの会員の参加が期待されるなどが話題として語られ、懇談は会員相互の交流が続く中、再開を期してお開きとなりました。

学科の状況

平成15年3月に60名(52期)が卒業して正会員となりました。4月に58名(女子34名、男子24名)の新入生を迎えました。現在2年生は60名(女子38名、男子22名)で合計118名

の準会員が在籍しています。

卒業生の進路

卒業生60名の内、生物資源科学部へ18名、他大学は9名(国立4名、私立5名)が編入学、専門学校へ7名が入学、就職は4名、その他22名でした。

入学志願状況

平成15年度一般入試の志願状況は募集人員25名のところ、210名の応募者が受験いたしました(昨年度受験生231名)。農学科では入学者の要望に応え、社会的評価が高まるべく教職員一同一丸となって一層の努力を致します。これまで同様、校友諸氏の絶大なるご支援をお願いいたします。

教職員の昇格・退職

昇格

新町文絵専任講師：平成15年4月1日、助手から専任講師に昇格されました。ますますの活躍が期待されます。

退職

後藤雅弘教授：平成15年8月20日、定年でご退職となりました。長年にわたり教育、研究にご尽力頂きありがとうございました。本年度は引き続き非常勤講師としてスポーツ技術、スポーツ科学の担当をお願いしております。

ホームページ

短期大学部紹介は以下のアドレスで公開しております。ぜひご覧ください。

<http://www.jha.brs.nihon-u.ac.jp/>

(青山友雄)

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇
連絡先 環境科学研究室
0466-84-3750 事務局長 飯塚 統
E-mail: kaken@jha.brs.nihon-u.ac.jp

校友会総会・懇親会の開催

2002年度の総会・懇親会は、11月30日(土)に本キャンパスにおいて開催されました。キャンパス内での実施は校友会設立以来初めてのことで、これは2002年に完成した新本館をはじめとして、大きく変貌したキャンパスをご覧戴こうとの趣旨から企画されたものです。総会は新本館の見学を兼ねて、14階にある「NUホール」と呼ばれる多目的ホールで行いました。晴れた日には伊豆大島まで一望できる新本館の最上階では、本学だけではなく、変貌著しい周辺の景色に参加者の感慨もひとしおであったようです。



懇親会は地階のカフェテリアで行いました。懇親会においては、本学科卒業生で現在シンガーソングライターとして活躍中のてつろう

さんによる弾き語りなどのイベントも催され、楽しいひとときを過ごしました。

学科の近況

卒業生

2003年3月に82名が無事卒業しました。卒業後の進路は生物資源科学部編入29名、他大学編入6名、専門学校11名、就職10名、その他はアルバイト・家事などでした。不況の折、就職すること自体困難な状況の中で、東京都目黒区役所、東日本旅客鉄道、はまぎん事務センター、第一生命情報システムなど、堅実な所を射止めているのは健闘していると言えるでしょう。

在学生

本年度の入試は昨年度を上回る受験者数で、1.7倍の倍率の中、4月には116名の新入生が入学し、117名の2年生と合わせて233名の学

生を確実に次の進路に送り出せるよう、より一層の努力をしなければならないと教職員一同決意も新たにしています。

退職

長年本学科のためにご尽力戴いた小野信孝先生(生活経済)と坂本都子先生(英語)が退職されました。なお両先生とも引き続き非常勤講師として教壇に立たれています。

新任

蒲原義明(国語)・芳村綾子先生(英語)が採用されました。

専門的な教育に加えて、進学や就職等、卒業後の進路をにらみ、基礎的な学力の向上を目指していきます。



蒲原先生



芳村先生

事務局より

今年の総会・懇親会も例年通り11月に予定しております。飯塚先生をはじめ諸先生方も皆様にお会いすることを楽しみにしておりますので、ご友人とお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

会員の方々に住所変更や改姓の異同がございましたらお手数ですが上記までメールかお葉書でご一報ください。

(蒲原義明)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室

事務局長 司馬 肇

TEL/FAX: 0466-84-3700

E-mail address: chang@brs.nihon-u.ac.jp

平成14年度総会を開催

平成14年度（第11回）の総会・懇親会は来る12月21日（土）、新本館の高層ビルの完成に伴い、生物資源科学部の景観が大きく変わりました日本大学生物資源科学部湘南校舎において開催されました。

総会において、まず、事務局長が財源、活動状況など校友会の現状について説明し、次に平成14年度の事業報告、会計決算報告、平成15年度の事業計画、会計予算案について審議され、いずれの案件も承認されました。総会後、来賓と校友の出席を得て懇親会が盛大に行われました（写真）。



応用生物科学科の近況

在籍：現在応用生物科学科の在籍学生数は573名（男子303名、女子270名）で、学年別では、4年生148名、3年生138名、2年生154名、1年生133名となっています。大学院関係では応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程34名、博士後期課程8名となっています。

退職：井上正教授は平成15年3月をもって退職されました。先生には学科発足当時から学科発展のためにご尽力いただきました。本当に有難うございました。先生の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

新任：井上正教授の退任に伴って本年4月からこれまで非常勤講師として講義を受け持っていたおりました高橋秀夫（前東京大学教授）先生が核酸科学研究所の教授として就任されました。

研究室の再配置：昨年度の会報でお知らせいたしましたように、応用生物科学科では研究室の再配置が行われています。昨年度までに



生体制御学研究室、核酸科学研究所および動物細胞学研究室は、4号館3階に引越を完了しています。本年度は、分子微生物学研究室、生体分子学研究室、生命工学研究室が4号館2階に、蛋白質科学研究所および植物細胞学研究室が同館3階に移動する予定であります。現在、工事はほぼ終了し、実験台や機器の搬入が開始されています。9月中に全ての研究室の移動が終了する予定であります。

卒業生の皆様、一新した応用生物科学科の研究室を是非見学においでください。

事務局より

今年の3月、会員の皆様を対象として総会開催についてのアンケートを実施し、110名の方から回答をいただきました。ご協力有難うございました。アンケートの結果をふまえ、今年度は総会を開催しないこととなりました。なお、2～3年に一度の開催を希望する方が最も多く、次回の開催は、来年または再来年を予定しています。その間に再度アンケートを実施し、会員の皆様方が校友会に対して何を期待しているのか把握していきたいと考えております。ご協力お願いいたします。

応用生物科学科校友会が発展するためには会員の皆様方のご支援とご協力は不可欠であります。今後の校友会の運営や活動について、多数のご提案をお寄せください。なお、住所変更、改姓、校友会についてご不明な点などございましたら、事務局までご連絡、お問い合わせください。（司馬 肇）

平成15年度校友会予算が大幅に変更

本年度は、日本大学校友会本部の業務変更による影響を受ける最初の年となります。このため、平成15年度校友会予算が大幅に変更されましたので報告いたします。なお、変更の概要は以下の通りです。

- 1) 入会金収入が平成14年度より約1,000万円減少します。（減額理由は校友会報第55号（2002）をご覧ください。）
- 2) 上記の事から分会交付金が約500万円減額されました。
- 3) 総会補助費を縮小し、会合費を削減しました。
- 4) 会報型式を変更し、会報作成費を削減しました。
- 5) 新入生記念品を配布しない代わりに準会員対応費を新設し約110万円減額しました。

なお、準会員対応費で、体育祭や学部祭の補助を行っていく予定です。

今後は、財務委員会等の意見を参考に校友会運営を行っていく予定です。

平成15年度 日本大学生物資源科学部校友会会計予算

科 目	平成15年度	平成14年度	差異増減 △
1. 前年度繰越	5,381,615	2,674,159	2,707,456
2. 入会金	16,640,000	26,860,000	△ 10,220,000
3. その他	8,385	15,841	△ 7,456
収入合計	22,030,000	29,550,000	△ 7,520,000

科 目	平成15年度	平成14年度	差異増減 △
1. 分会交付金	8,320,000	13,430,000	△ 5,110,000
2. 経常費	8,470,000	9,900,000	△ 1,430,000
1) 会合費	1,000,000	2,400,000	△ 1,400,000
2) その他経常費	7,470,000	7,500,000	△ 30,000
3) 事業費	3,600,000	5,100,000	△ 1,500,000
4) 会報作成費	2,000,000	2,300,000	△ 300,000
2) 新入生記念品	0	2,100,000	△ 2,100,000
3) 準会員対応費	1,000,000	0	1,000,000
4) その他の事業費	600,000	700,000	△ 100,000
4) 予備費	1,640,000	1,120,000	520,000
支出合計	22,030,000	29,550,000	△ 7,520,000

支部だより

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433

山形市鳥居が丘4-55

日本大学山形高等学校内 池田卓郎

TEL 023-641-6631

FAX 023-641-6634

E-mail: t-ikeda@ymgt.hs.nihon-ac.jp

平成15年2月22日（土）天童温泉「檜風呂の宿つるや」において第11回山形県支部総会が、30数名の参加で開催されました。

安達副支部長の開会挨拶ではじまり、木戸啓二支部長（植物資）の挨拶の後、渡部秀美（農化・平成1年卒）議長による協議に入り、会務報告、会計報告、監査報告及び予算案とスムーズに審議されました。

また、役員改選が行われ新役員として支部長櫻井麻男（動資）、副支部長小松文嗣（獣医）、幹事長新関博夫（獣医）各氏が満場一致で承認されました。

続いて恒例の学科持ち回りの記念講演が行なわれました。今回は植物資源科学科の担当で講師として荒澤瑞男氏（昭35年卒）が「この頃思うことと私のあしあと」と題してお話いただきました。氏の豊かな人生経験を通じた「躰」の大切さをお聞きし改めて全員領くことが多かったようです。

本部の活動状況および大学の近況報告を学部校友会会長茂澤泉先生、事務局長本江一郎先



生の二人にお話いただき、日本大学山形高等学校事務長佐藤正弘先生からは少子化に向けての学校運営についてお聞きしました。

懇親会では、来賓の経済学部校友会県支部長加賀山隆士氏、工科系校友会県支部長小林高明氏より支部の状況を話していただきました。恒例の学科ごとの自己紹介は、酔いも手伝ってか真面目ありユーモアあり楽しいものでした。最後に参加者全員による校歌の斉唱でお開きとなりました。（事務局長 池田卓郎）

山梨県支部の近況

連絡先 〒405-0017

山梨市下神内川187-1

支部長 小越 昭雄

TEL 0553-22-2400

山梨県支部では、平成15年10月11日（土）にJR中央本線石和温泉駅前通り「旅館」糸柳において、県支部理事会を開きます。平成17年10月には同じ「旅館」糸柳において、県支部創立20周年記念の県支部総会を開催する予定であります。この為に理事会において支部総会の議題、役員改選等について協議致しますが、特に今回は県支部長、副支部長、事

務局長、理事等大幅に交代し、又、補充もあります。本当に大きな節目の総会となります。その折にはご案内致しますので大学本部校友会の会長様、事務局長様、教授の皆様方のご指導をお願い申し上げます。又、事前に種々お願いを致しますが、お認め下さるよう切望いたします。(支部長 小越昭雄)



山梨県支部の理事会、総会の会場となる「旅館」糸柳の前で、県支部旗を持つ小越支部長

において第15回高知県支部総会が開催されました。当日はご来賓の茂澤本部校友会会長、本部事務局長の本江先生、特別会員の高坂鉄雄先生を県内各地から集まった校友が囲み21名の出席者となりました。



総会は中西支部会長挨拶、平成14年度事業および収支決算報告、平成15年度活動方針および予算と議事は滞りなく進み、引き続いてご来賓からのお祝いのことばを頂戴致しました。

茂澤会長様からは、日大らしさを創造し準

会員(学生)の支援援助を行うことを主旨とした本部校友会の改革についてのお話。本江先生からは大学の近況と校友会の運営の現状、就職を含めた学生への支援を支部へも要請していきたいといった構想。高坂先生からは15周年をむかえた高知県支部の成り立ちの思い出や44年間の教育に携わった大学への熱い思い、先生自身の近況などを楽しくお話いただきました。

続いて長崎収夫校友会高知県支部会長の乾杯で懇親会が開催されました。賑やかにあちこちで笑いの輪が出来、本江先生の音頭により全員で校歌を斉唱し、お開きとなりました。

(事務局長 前川卓也)

神奈川・生物資源科学部会

連絡先 〒252-8510
藤沢市亀井野1866
日本大学短期大学部
環境生態学研究室
事務局 浅野 紘臣
TEL 0466-84-3747
E-mail: asano@brs.nihon-u.ac.jp

創設25周年記念総会・懇親会開催

わが国の今夏は、10年来の冷夏で米の不作が心配されています。ヨーロッパは逆に連日40℃を越える熱波や大水害の発生など、異常気象が報道されています。やはり地球環境変化の現れでしょうか。



当部会が昭和53年9月に、故佐々木弘康前会長の発案で結成されて以来25年が経過し、記念すべき年の総会・懇親会を昨年11月16日に開催いたしました。

来賓として、川井義一前大校友会神奈川支部会長、茂沢果生物資源科学部校友会会長、長野實湘南校門会長ご臨席のもと、私が会長就任以来最も多い60余名の母校愛旺盛な正会員の出席をいただき盛會裡に開催できました。総会では、(a)前年度活動状況経過報告、(b)会計決算報告、(c)監査報告、(d)会則の一部改正案が事務局より提案され、熱心な討議を経て一部修正承認されました。

本年度の総会・懇親会は、年末開催を予定しております。改正された会則に則る役員改選の年でもありますので、会員の皆様には多数ご出席下さるようお願い申し上げます。

(会長・高坂鉄雄)

高知県支部

連絡先 〒780-0084
高知市南御座9-19
事務局 前川 卓也
TEL 088-880-0538
E-mail: maekawa@mb.inforoyoma.or.jp

去る8月23日(土)、高知市の料亭「葉山」

校 友 だ よ り

「夢をカタチにする」

平成2年度 生活環境科卒業
HOUSING CONSULTANT家達屋

長屋 智美

ある人が教えてくれた。強く願ひ続ける事が夢を勝ち取る秘訣だと。強く願う→意識が変わる→行動に表れる→周りを動かす→チャンスが巡ってくる。だが社会人歴が長くなるにつれ、あの日満ち溢れた想い・希望は薄くなる。時に流されながら。

飯尾先生の元を卒業してから早14年目。色々な経験をした。就職・結婚・出産・転職。海外出張にまさか行くとは夢にも思わなかったが、そんなチャンスによって視野をぐんと広げる事もできた。自分の自信へもつながった。子育てしながらの苦労もちろんあったが、「できない」と最初から思っているうちは、何も変わらない。今の自分の置かれている現実を嘆いていても、何も変わらない。変えようという意思と、少しの勇気があれば、きっと自分が変わる→環境も変わる。色々な人に助けていただいたおかげで、チャンスをキャリアに変えることができた。

「やらなければいけない」のではなく「やろう」。そういった気持ちの切り替えが、自分の力をも最大限に引き出してくれる。そして遠回りしながらも、ついに今年、自分の夢をカタチにすることができた。家達屋(カタチャ)を設立。ハウスメーカー、工務店、設計事務所、それぞれの長所を生かし、今後はお客様の夢をカタチにする。歴史はまだないが、正直に接している姿を評価していただく、紹介客が大半である。今、学生時代からの夢が叶い、またさらなる夢に向かいこれから生きていきたい。最終の夢は、老後の海外移住。まだ具体的には決めていないが、また強く願ひ続け、必ずカタチにしたいと思う。

食品営業の最前線で

平成10年 食品経済学科卒業

木村 賢太郎

私は現在、日本たばこ産業が100%出資する、JTブランドの食品全般(飲料、市販用冷凍食品、業務用冷凍食品、食品原料(調味



料、酵母等の製パン原料))を販売するジェイティフーズ株式会社で働いております。

私が入社した当時は、JTが旭化成の食品事業(旭フーズ)を買収し本格的に食品事業に進出して「食品業界のメジャープレーヤー」になるという方針を打ち出した年で、これからの飛躍に向けて全社一丸となって取り組むという意気込みを感じとれたのを今でも覚えています。

JTの食品という Roots、紅烏龍などの飲料や市販用冷凍食品が注目されがちですが、旭化成から受け継いだ食品原料というカテゴリーもそれなりの規模で展開されております。現在私は製パン用の酵母を中心とした食品原料を、大手製パンメーカーや加工食品メーカー、CVSなどに対してプレゼンテーションや商品提案を行ないながら全国的な商流に乗せる提案営業の最前線の部署で活動しております。

特に酵母など原料の営業は、営業センスはもちろんのことメーカーの技術者や開発担当者に対して技術的な説明も頻繁に行なう為生物学的な知識を必要とする場面が数多くあります。そのような時食品経済学科「理系学部の中の文系学科出身」というキャリアは非常に有利になっていると思います。

またこの食品業界で仕事をしていると農獣医学部出身の先輩方と出会う機会が数多くあり、そのような時農獣医学部が築いてきた伝統や実績を肌で感じるがあります。

今後この業界で仕事をしていく中で生物資源科学部出身の優秀な先輩達と出会う機会が数多くあることを期待して止みません。

地球の裏側からこんにちは。

平成15年国際地域開発学科卒・在ボリビア海外青年協力隊)

平沢 恵介

こんにちは、平澤恵介です。地球の裏側、南



写真はシカシカ町出身のチヨリータさんと筆者（左端）

米ボリビアより、こちらの状況を報告します！

先日からラ・パスの語学学校にて、スペイン語の語学訓練が始まりました。任地に派遣される前に、隊員は任国で1ヶ月間学校に通うことになっています。授業はスペイン語。もちろん日本での語学訓練のように、日本語は使えません。どうしても分からないときは英語で聞いたりしていますが…。ミュージアムへ行ったり、日本の文化紹介をする課外授業もあります。休憩時間はココ茶（ココの葉、国外には持ち出せない）やマテ茶のサービスがあり、こっちはすっかりこの味にハマっています。中毒になりそう。でも、この茶類は国外に持ち出せないとの事。お土産に持ち帰らなかったのに…。

せっかく勉強しているスペイン語ですが、任地では一般人には通じにくく、現地語のアイマラ語（インディヘナの人達の言葉）も勉強しなければなりません。今のところ、スペイン語も英語も日本語）も中途半端なので、覚えるのは現地に行ってから少しずつ、ですね。特に私のように村落開発普及員として村の中を巡回して住民と対話する職種は、現地語を覚えるのは必須になってきます。もちろん、自分と同じ視点を持って活動する現地のカウンターパートを見つけて、通訳してもらってコミュニケーションを図ることが重要です。

なってきます。コミュニケーションで重要なのは、言葉だけじゃないですからね。

語学訓練は8月中旬まで。それ以降は各任地に配属となります。私の任地は首都より120kmのシカシカ町（Sica Sica）。バスで2時間です。標高4000m前後の高地にあるので、ラ・パスよりさらに空気が薄くなります。

まあ、何にしても早く行ってみたくてしょうがないです！現地の人に聞くと、何でそんなところへ、ということも聞きますが…。都会暮らしの人には、かなり田舎のようですね。シカシカ町は。でも、この間訪れたあるお店にいたチヨリータさんが、偶然にもシカシカ町出身で、いろいろと話を聞く機会に恵まれました。景色は最高にいいとか！

任地へ配属されてからは、パソコンのメールチェックの機会も月に1度(?)くらいになりそうです。頻繁にメールは出来ませんが、これからもよろしくお願いします。

それではまた♪

農業と漁業の面白さ

平成7年農学科卒業 自営（農・漁業）
葉山 博史

平成3年に入学した私は柔道部に所属して毎日柔道場に通い、先輩から厳しくシゴかれ、4年生では後輩を指導する立場になり、色々な面から身体と精神を鍛えた学生時代を過ごしました。また、3年生からは将来に向けての勉強を始める軽い気持ちで、学科で最も厳しい研究室を訪ねて入室の許可を得たが、翌日には研究室を退出したいと助教授に打ち明けると「研究のすばらしさを知らずに去る事には反対である」との返事が返ってきた。この出会いが今の私にとって、その後の人生に大きな財産となっている。

私の家は鵠沼海岸で昔から堀川網と言う網

元を家業とし、漁業と農業をやっている。学生時代の4年間は早朝4時には船に乗り、両親の手伝いをしながらの通学を行い、部活と研究室活動を毎日続けたため、他の学生よりは異質な生活を行っていた。

卒業後はトマト栽培に着手し、漁業ではシラス漁、干物（アジ、カマス、シラス）の加工業の複合経営を行い、また、観光的な地引き網を休祭日に行っている。本学部の植物資源科学科、海洋生物資源科学科、獣医学科の新入生オリエンテーションは、毎年、堀川網を利用しており、新入生と出会う事は私にとって、母校を身に沁みて感じる時である。

大学は多くの人々と出会う良い交流の場所でもあり、私は人生最良の妻をキャンパスで得たことを最後に記したい。



学生の来訪を待つ山形県支部および高知県支部校友会

研究、研修、クラブ活動で、学生の来訪を歓迎するとの意向が全学科の校友が会員として活躍中の両支部より出されました。希望の学生は直接下記のアドレスに申し込んで下さい。

山形県支部事務局 担当 池田卓郎
t-ikedat@ymga.hs.nihon-u.ac.jp
高知県支部事務局 担当 前川卓也
maekawa@mb.inforiyoma.or.jp

日本大学生物資源科学部校友会 役員・事務局名簿

名誉会長	佐々木 恵彦 (農化)	日本大学副総長・日本大学生物資源科学部長	〃	斎藤 公三 (環工)	日本大学生物資源科学部
会長	澤田 寿樹 (短農)	(株)モザワ	〃	藤村 公三 (食科)	三凱商事
副会長	村田 元井 (環工)	(有)マルナカ	〃	関根 永章 (食科)	チーズ&ワインアカデミー東京
〃	福井 祥彦 (植物)	中央開発(株)	〃	竹内 俊太郎 (食科)	日本大学生物資源科学部
幹事	石川 武矩 (短生)	三井住友銀行システム第2部	〃	田口 博治 (国際)	日本大学生物資源科学部
〃	江木 刺瑛 (植物)	日本大学生物資源科学部	〃	早川 春男 (国際)	神奈川農畜産会
〃	中尾 弘樹 (農化)	日本大学松戸歯学部	〃	鈴木 利健 (短農)	大成建設(株)
〃	長尾 秀樹 (獣医)	豊栄産業(株)	〃	渡辺 憲司 (短生)	日本大学短期大学部
〃	内田 壮七 (獣医)	中川獣医科病院	〃	大塚 清崇 (応生)	(株)スリオンテック
〃	遠藤 克一 (動物)	日本ペット&アニマル専門学校校長	〃	岐谷 崇司 (応生)	理研香料工業(株)
〃	山本 捷進 (動物)	日本大学生物資源科学部	〃	小島 香織 (短生)	備富士通アドバンストリソリューションズ
〃	村山 進一 (食経)	(株)京王百貨店	〃	江崎 根次 (農化)	日本大学生物資源科学部
〃	千藤 徹至 (食経)	日本農産工業	〃	山根 勝次 (食科)	種福商店 (自営)
〃	齋藤 敏夫 (森林)	千田税理士事務所	〃	西濱 栄和 (森林)	日本大学生物資源科学部
〃	赤宮 吉逸 (森林)	日本大学生物資源科学部	〃	〃	〃
〃	石垣 木四郎 (海洋)	日本大学生物資源科学部	〃	〃	〃
〃	大谷 喜昌 (海洋)	農林漁業信用基金	〃	〃	〃
〃	吉原 好二 (環工)	日本大学生物資源科学部	〃	〃	〃
〃	鈴木 昌二 (環工)	日本大学生物資源科学部	〃	〃	〃
〃	〃	世田谷区議会議員	〃	〃	〃

会報編集委員

農学校友会 井上 弘明
紫友会 関 泰一
角笛会 丸山 一
満喜葉会 園 豊
いもづる会 木島 実
あすなろ会 宮野 彦
桜水会 杉 治男

工学会 川西 啓文
F T 会 阿部 申
拓友会 緒方 広
むつあい会 寺澤 雄
生活環境学 蒲原 義明
科校友会 佐藤 嘉兵
応用生物科学科校友会

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL FAX 0466-84-3799
E-mail : koyukai@bbs.nihon-u.ac.jp
編集・発行 会報編集委員会 委員長 富澤 寿樹
印刷所 東京商工株式会社
TEL 03-3231-6234 FAX 03-3231-6320
E-mail : shouko@galaxy.ocn.ne.jp